

平成 22 年度 事業 報告 書

(平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人モーストの会

1 事業の成果

6 月 28 日-7 月 2 日、テヘランにおいて「平和のメッセージ」展、大量破壊兵器犠牲者の集会、毒ガス被害者治療のための医療会議が開催された。イラン非政府組織 (N G O) 化学兵器被害者支援協会 (S C W V S) の招きで、モーストの会から 3 名、原爆被爆者、寺本貴司氏、広島大学病理学教室、井内康輝教授の計 5 名が参加した。

初日、テヘランササン病院でイラン人医師らとの会議を行い、日本とイランの毒ガス障害に対する、医学的知見をまとめたアトラス (論文、写真集) を作成する案が出た。予算、参加医学分野や執筆医師の候補、選定、論文収集など進め方を話し合った。これに関し、覚書をイラン側 Janbazan Medical & Engineering Research Center と広島大学医学部病理学教室との間で締結した。また、これまでの共同研究の論文執筆の可能性も話し合った。

6 月 29 日、「平和のメッセージ」展の開会式へ参加した。ベルギー、ベトナム、イラク、日本、イランの大量破壊兵器による被害国の団体が招かれ、式典へ出席した。アフマニネジャド大統領から平和のメッセージを賜った。展示会には、広島の原爆ポスターなども展示された。また、各国の被害者らが一同に集まり、副大統領らへメッセージを語った。

8 月 4 日、イラン毒ガス被害者 2 人、イラン大使館 ブーラギ 1 党書記官を含むイラン化学兵器被害者支援協会会員ら 7 名が来広した。今回で 7 回目になる。初日、大久野島毒ガス資料館を訪問し、日本人毒ガス被害者の慰霊碑を訪れた。2 日目、広島市立幟町中学校を訪れ、沖縄市ほかから平和学習に訪れた中学生や同校生徒 300 人あまりが参加した平和学習会で、当会理事長が平和の大切さや被爆後に医薬品を届けたスイス人医師の生涯を描いたアニメ「ジュノー」について語った。集会で、イランで毒ガス被害に遭った父親をもつアリ・ハテリ君 (11 歳) が「化学兵器の犠牲を出さないよう手をつなごう」と訴えた。その後教室で生徒らが「ジュノー」を観賞した。3 日目の 8 月 6 日は、被爆 65 周年の広島平和式典へイラン毒ガス被害者と参加した。その後、平和資料館の前田館長や平和文化センター、スティーブン・リーパー理事長を表敬訪問し、資料館を見学した。毎年行っている「被害者の痛みを語り合う集い」を原爆被爆者 3 名を招き、袋町のボランティアセンターで行った。最終日はホテルグランヴィアで行われた送別昼食会で、各自が思いを語った。毒ガス被害者の一人が「広島の被爆者の『許すけれど忘れない』の精神を学んだ」と述べたことは、広島訪問がとても意義あるものであったことを物語っていた。

平成 23 年 1 月、イランを訪問し原爆展を行う予定だったが、同国首都テヘランで「有害浮遊物質は基準の 10 倍を超え、呼吸障害や頭痛などの救急病棟の患者が市内で 4 割増える (毎日新聞平成 22 年 12 月 9 日付から) 」という大気汚染のため急遽延期となった。